

「修学旅行に向けて車窓マップを作ろう」

神奈川県川崎市立長沢小学校 小原宏大

1. はじめに

これまでの授業の中でも地図をさまざまな機会を通して活用してきたが、じっくりと地図上を指でたどって活用する機会はなかった。そこで、6年生の修学旅行を機に、地図を十分に活用して、地図からどんなことがわかるのかを実感し、地図活用の楽しさを学ぶ活動を考えた。

川崎市の小学校の修学旅行は、団体専用列車で南武線のそれぞれの駅から武蔵野線、宇都宮線を経由し、日光へ向かう。その事前学習の一つとして、地図を使つての『車窓マップ作り』を取り入れた。活動を通して、子どもたちの地理的な感覚を養い、さらに自分たちの修学旅行への意識づけにもつながればと考え実施した。

2. 車窓から見えるものを見つけよう

最初に子どもたちに、「日光までの車窓から見える風景ってどんなものだろう」と投げかけ、地図を活用してそれぞれがどんな風景が見えるかを予想した。実際にこれから行こうとしている場所ということもあり、子どもたちは「どこを通過していくの?」「通過する駅は?」「目印になるものはないかなあ」「どこら辺が家が多くて、どこからが田んぼが多いのか」などと意欲的に調べ発表していた。横切る川や道路、土地利用のようす、沿線の特産品、遠くに見えると予想される山などに意識を広げた児童もみられた。

3. 車窓マップを作ろう!

次に実際に『車窓マップ』を作る活動へと入った。まず紙に鉄道の路線を写し取り、そこに駅名、川や高速道路などの目印、田や畑、市街地など地図から読み取れる情報を各自が記入していった。仕上げに、本やインターネットで自分なりに調べた情報を入れた。色鉛筆で、きれいに色を塗り、自分だけのオリジナル『車窓マップ』の完成である。実際に、自分でマップを作ることで、子どもたちの中に、地図から読み取れることへのイメージがより膨らんでいったようである。

4. おわりに

この活動のよさは、自分たちで作った『車窓マップ』を活用しながら実際に目で確認ができることである。自分で調べたことが、修学旅行当日は確認でき、子どもたちは、「そろそろ高速道路が見えるはず」とか「思ったより田んぼがすくないなあ」などと口々に地図と実際の車窓を比較しての感想をもらしていた。

子どもたちは、地図帳が、ただ地名を探すだけのアイテムではなく、自分たちがそこに行かなくてもその土地のようすがわかることのできるものであると感じていた。その後の学習では、地図から読み取れることをもとに考えていくことができる子どもが増えてい

ったように感じた。

「利根川を越えたら、お弁当を食べていいよ」そんな投げかけをすると、どの子も真剣に、地図とにらめっこ。利根川を越えると、車内にはお弁当のいい匂いが漂っていた。

